

2012年度第1回

“人権問題を共に考えよう”全学学習会

講演① 東北地方太平洋沖地震・津波にあつて—想定・いのち・出遇い—

講師 東館紹見氏（本学准教授）

被災地では、今なお、3000人以上の方の行方がわからず、今後の生活のあり方についての方向性も描けない状況のまま、多くの人々が罪悪感や孤独感等を抱えつつ生きています。今回の地震・津波以後、私たちはともに考えるべき本当に多くの課題に直面しているのではないのでしょうか。あの日から今日までの経験や所感をお伝えし、今後のあり方をともに考えてゆく機会としたいと思っています。

講演② 東日本大震災—福島の1年—

講師 木ノ下秀俊氏（東北地方太平洋沖地震現地復興支援センター主任補佐）

着の身着のまま避難し、今も仮設住宅で暮らす人たち、避難指示が遅れ三ヶ月も危険な場所で暮らした人たち、放射性物質に汚染された雪の降るなか給水に並んだ人たち、汚染された山の木の実を食べる猪や猿たち、汚染されていると知りながらもそこに住むしかない人たち、線量計を首にかけた子どもたちを送り出す母親たち、それが福島に生きる私たちです。事故から一年経過し、収束宣言が出されましたが、原発災害はまだまだ進行中です。言いようのない不安は消えることはありません。その不安は闇となって私たちをのみこんでいこうとしています。それが福島の今なのです。

日時：2012年7月4日（水）

18：00～19：30

場所：講堂



主催：大谷大学人権センター